

札幌市立大学 × 札幌大谷大学 共催 二夜連続公開講座

本講座は、表現者の方々をお迎えし、どのような実践を行い表現を生業とする職業やキャリアパスを築いてこられたのかを紹介するプログラムです。この度、国内外で活躍するアーティストのクワクボリョウタさんをお迎えし、「デバイス・アート」と呼ばれる独自のスタイルを生み出してきたこれまでの活動やアイデアの発想方法についてご紹介していただきます。関連企画では、クワクボリョウタさんを講師に迎えユニークな考え方や作り方の実践を体験することができるワークショップを行います。

表現者になること — 社会的実践とキャリアパス

メディア・アーティスト

クワクボリョウタ

■関連企画(ワークショップ) 「アナログ・プロジェクションマッピング」

日時:2013年10月28日(月) 20:30-21:00

2013年10月29日(火) 19:00-21:00

会場:越山計画

先着:5名

申込先:札幌大谷大学 芸術学部 美術学科

TEL:

司会・進行:

石田 勝也(札幌市立大学)+小町谷 圭(札幌大谷大学)

2013年10月28日 月
19:00~20:30

会場:越山計画

札幌市中央区北2条西3丁目1番地 越山ビル 202

入場:無料

mail:クワクボリョウタ / Ryota Kuwakubo

現代美術とメディアアートを学んだ後、98年に明和電機との共作「ビットマン」を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品によって、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション「10番目の感傷(点・線・面)」以降は、観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。その他の代表作に「ビデオバルブ」、「PLX」や、Sony CSLに開発参加した「ブロックジャム」、「ニコダマ」などがある。

<http://www.vector-scan.com/>

